

宮田 篤 (MIYATA, Atsushi), 教授

1. 教育の責任 (何をやっているのか)

科目		領域			位置づけ	開講時期			
						1 前	1 後	2 前	2 後
キャリアプランニング (食)	演習	総合	コモン	コモンベ-シックス	卒業必修		○		
キャリアプランニング (幼)	演習	総合	コモン	コモンベ-シックス	卒業必修			○	
インターンシップ A	実習	総合	コモン	コモンベ-シックス	秘書士必修	集中			
インターンシップ B	実習	総合	コモン	コモンベ-シックス			集中		
人間と文学	講義	総合	教養	人間の理解			○		○
スタディスキルズ II *1	演習	専門	専門		卒業必修		○		
特別研究 *1	演習	専門	専門		卒業必修			○	○
秘書学概論 *2	講義				秘書士必修	○			
ビジネス文書	講義				秘書士必修		○		
秘書実務 *2	演習				秘書士必修			○	○

*1 複数担当者による科目

*2 経営法学部 (上級秘書士履修者) との合同開講科目

- 1) キャリア科目担当者として、学生の自己理解・自己分析・自己表現の向上に努めている。
対学生だけでなく教職員間、対外部キャリア支援スタッフ、対企業、対卒業生と相互理解のための連携を図るコーディネータ、ネゴシエータ役を担っている
- 2) インターンシップについては 2018 年度における単位化開始、および 2019 年度からさらに改変を伴う中でのシラバス修正、新規受入先開拓、学科内運営等の整備・修正を行った。2019 年度から Teams によるファイル管理、学生指導、連絡全般において利用を開始したが、2021 年度には事務局を含めた運用が可能となった
- 3) 教養科目の「人間と文学」は自分自身の学生時代の専門領域でもあるため、最も情熱を注げる科目であると同時に、キャリア科目よりはるかに受講学生が自分自身と向き合うための科目ではないかと思っている。この科目の短期大学の受講者は決して多くはないものの (2021 年度は学院大学 69 名に対し短期大学 9 名)、専門職の免許・資格取得に明け暮れ時間制約の多い短期大学生に、自覚する世界観と未来像の体感につながることを目指したい

2. 教育の理念 (なぜやっているのか)

- 1) 「相手に合ったコミュニケーションをとることができる栄養士」を育てることを目指している
- 2) 最終的には、学生が教員の助言や指導を離れ、独力で課題解決を実現するための想像力、判断力、創造力を持った「おとな」に成長することを目指す
- 3) 到達目標、学修成果については、学生が理解できることに止まらず、理解したことを表現できること (記述、口頭、図解などさまざまな手段で表現できること) を目指している

3. 教育の方法 (理念や目的を達成するために、どのように実践しているのか)

- 1) 全ての担当科目 (複数担当者による研究室単位の科目を除く) において、第 1 回授業のオリエンテーション時に「科目のディプロマポリシー (学位授与の方針【学修成果】・カリキュラムツリー・カリキュラムマップとの関連性)」「授業の概要・目的」、「自己点検・分析項目」「全 15 回 (通年科目は 30 回) の授業計画」「評価項目と割合」「成績評価基準および昨年度の成績分布」「期末レポート等の出題概要」「科目責任者の研究室・オフィスアワー・連絡手段」を、配布物とともに説明している。同時に、コマ毎ならびに最終コマにおける授業全体のふり返し方法を説明している
- 2) 毎回の授業開始時に、①当日の進行、②「基本目標」「到達目標」における該当回の位置づけ、授業内での経過確認と授業終了時のふり返し方法を示している

- 3) キャリア科目と秘書士科目において *3, 15 回の内 2 回ないし 3 回, グループワーク (ペアワーク含む) を実施している。また, 研究室単位の科目, 秘書士科目 *3 において, プレゼンテーションのリハーサルと発表で, 録画によるふり返りを伴う演習を実施している
- 4) 「秘書実務」でのプレゼンテーション評価についてはルーブリックを使用しているが, 授業担当者による成績評価とは別に, 学生自身による自己評価も同ルーブリックで実施し, グループワークによるふり返りに使用している

*3 「キャリアプランニング」「秘書学概論」「秘書実務」「ビジネス文書」においてグループワークを実施

*4 「特別研究」「秘書実務」においてリハーサルも含めて録画によるふり返りを実施

4. 教育の成果 (教育の方法を行った結果, どうだったのか)

- 1) 研究室単位の授業以外の全科目において (「3. 教育の方法 *1」参照), 第 1 回および第 15 回終了時に「自己点検・分析シート」を作成させている。理解度の自己評価とその変化・成長に対する自己分析を記入させ, 科目の目的・到達目標・学習成果を自ら点検させることを目的としている
- 2) また, コマ毎の授業終了時に「コミュニケーション欄」と称した自由記述欄にコメント・質問を記入した学生全てに, 個別または受講学生全体に回答・対応している
- 3) 上記「2)」の方法は, 本学で科目の最終コマに使用している「授業改善アンケート」では 15 コマ開始時に関する記述に対する信頼性に疑問が残ることと (最大で 4 ヶ月前の記憶を辿ることになるため), かつ改善の要求は, 極力, その時点での学生に還元するために実施している
- 4) 学生からの「コミュニケーション欄」コメント抜粋 (原文のまま)

① キャリアプランニング (食物栄養 1 年)

*15 回を通して, 自分が就活することの意識を高めることができた。

*最後の授業では, 1 回目の授業からだいぶ考えがまとまったと分析シートを見て思った。

*今までの授業をふり返り, 文章で書き記すことができた。

*この授業で就職についての不安がだいぶ消えました。もう就活は始まっているので危機感をもって頑張りたい。

*今日は宮田先生の今までの人生のお話を少しだけ聞いて, 自分の思い通りにはならないこともあるということを知りました。どんな将来になったとしても, その場所で輝いていけたらいいなと思います。

*自分のことをふり返り, 出来るようになったことを知ると, うれしい気持ちや達成感もてた。

*ふり返りでそれぞれに点数のようなものをつけて全体的にみたら, 上がっていたけど伸びはそれほど大きくなかったのだから, これから身につけることが多いと思った。

*今までの授業を通して, なりたい自分がだんだん見えてきて, その目標に達するにはどのようなことが必要かも考えられるようになり, すごく自分が成長したと感じた。就職に向けて頑張りたい。

*私も, 今までやりたいことがあって, 周りの反対や, 自分を貫き通すことができず, あきらめたことがありましたが, それでも, 今の自分と今までの道は繋がっていると思いました。

*先生のチェックハンコが毎回違うので楽しみにしていました。15 コマおつかれ様でした。ありがとうございます。

② 人間と文学 (食物栄養 1 年, 経営法学 2・3・4 年)

*今回は 14 回分の授業を通して私を見つめ直し, 成長した点を探すと回でした。私が思っていた以上に作品から学ぶことが多く, 先生が初回から何度もお話してくれた「文学とは自分学」の意味が分かった気がしました。自分を分析する手段としても, 心を豊かにしてくれるものとしても文学は効果的で, 奥が深いものであると気づきました。これから作品を読む際は, 自分と照らし合わせてみることにしていきます。

*振り返りシートを書くことにより, 自分の成長を改めて知ることができ, 良かったです。

*とてもおもしろい授業でした。山本周五郎の他の作品もよんでみます。

*人間と文学の授業を通して『赤ひげ診療譚』について知ることができ, かつ, 人としての考え方も深めることができてよかったと感じた。

*山本周五郎という人物の生き方はとてもおもしろいと思った。だから, 山本周五郎の世界観をもっと楽しむために, 色々な作品を読んでいこうと思う。私が 50 歳を過ぎたら最高の作品「な

がい坂」を読んで、どのような感情が持てるか楽しみである。

③ 秘書実務（秘書士：食物栄養・幼児保育2年／上級秘書士：経営法学2・3年）

*2年間、秘書士の授業を通して、知識的な部分も大切だが、1番は、前に出て発表する機会や、他学科、学部の人達と交流があったので、より積極的になれました。2年間ありがとうございました！！

*秘書士の授業を受けたことで、一般的なマナーから応用した知識まで身につけることができ自分の為になりました。

*ためになる授業でした。学んだことを自分の血肉にしていきたいです。ありがとうございました。

*秘書で学んだことを自分自身もう一度よく思い出し、社会人になっても活かされるよう勉強し直したいと思います。宮田先生ありがとうございました。

5) 評価方法・成果に対する課題

学生自身による「自己点検・分析シート」は、自ら問題点を発見し学ぶという学習態度への気づきには一定の成果を期待することができる。だが、基本は主観的な振り返り手段であるため、何かしらの客観的・絶対的な評価方法・基準の併用については、引き続き検討する必要がある

5. 今後の目標

1) 短期目標

「自己点検・分析シート」で科目ごとに「到達目標」10項目の振り返りを実施してはいるが、学生本人の振り返り手段に止まっている。今後はこれらの項目を、シラバス段階ではディプロマポリシーと、授業段階では評価項目との連動を念頭に、再度、授業計画と評価のシステムを見直したい。検討の経過・成果については学科内学術懇談会や研究紀要にて発表し、学科教員との情報共有・問題共有を図りたい

2) 中期目標

「相手に合ったコミュニケーションをとることができる栄養士」を育てることを目指すとする自己の理念・目的をふまえ、単に進路の選択と結果（内定）に止まらず、他科目（特に「特別研究」）における成果の連携手法について検討したい

6. その他

1) 学内においては、短期目標・中期目標の成果を毎年度、研究紀要に記録として残すことで、継続的に関係教職員と共有したい

2) 学外においては、所属学会における実践事例報告、研究発表を目指したい

7. 根拠資料

① シラバス ② 各科目オリエンテーション資料 ③ 各科目自己点検・分析シート ④ コミュニケーション記述欄シート ⑤ 授業改善アンケート ⑥ 「10年後の私」レポート ⑦ プレゼンテーション録画映像・スライド